

ベネズエラ情勢（内政・外交：平成29年12月）

1 内政

（1）市長選挙

ア 10日、全国市長選挙及びスリア州知事再選挙が実施された。同日、オブリタス全国選挙評議会（CNE）委員は、第一回開票結果を発表し、有権者の47.32%が参加したとして、ファリアス新リベルタドル市長（PSUV）、プリエト新スリア州知事（PSUV）等の当選を発表した。同日、マドゥーロ大統領は、全国335市の内、与党が、300市以上で勝利したと発言した。

イ 11日、ノーアート米国務省報道官は、ツイッターを通じ、10日、マドゥーロ大統領が、「今次選挙に参加しなかった政党は、今後（の選挙に）参加できない。」と発言したことについて、「野党の大統領選への参加を禁止するマドゥーロ大統領の企ては、ベネズエラの民主的な空間を閉ざし、権威的な独裁政権における権力を強化するもうひとつの過激な手段である。」と述べた。これに対し、同日、アレアサ外相は、ツイッターを通じ、反論した。

ウ 13日、制憲議会は、「新市長の宣誓は、各地区の制憲議会議員、市議会議員、全国選挙評議会（CNE）に対し、なされるべきである。」との政令を承認した。

エ 14日～18日、新市長による制憲議会への宣誓が行われ、ミランダ州チャカオ市、エル・アティージョ市、バルータ市、ロス・サリアス市の野党市長も宣誓した。

（2）制憲議会

ア 20日、制憲議会は、国政選挙、州知事・州議会議員選挙、市長・市議会議員選挙のプロセスに参加する政党は、全国、地方規模の直前の選挙に参加していなければならない、直前の選挙に参加していない政党は、政党、公的集会、政治的集会にかかる法律の規定に従い、新たに（政党登録を）有効にすべきであるとの政令を承認した。

イ 20日、制憲議会は、カラカス首都圏（Alcaldia Metropolitana de Caracas）及びアルト・アプーレ都市圏（Alcaldia Metropolitana del Alto Apure）は、これまでの組織の管理運営が、非能率的であり、汚職があり、さらに、職員への給与支給が、常時遅延しているとして、これら2都市圏の恒久的な解消を承認した。

ウ 21日、ブラジル外務省は、制憲議会の決定について、マドゥーロ政権の継続的な抑圧措置を非難するとのコミュニケを発出した。

エ 22日、カナダ外務省は、ツイッターを通じ、制憲議会の政令は、次期大統領を含めたリーダーを自由に選出するベネズエラ国民の権利に対する新たな脅迫であると非難した。

オ 22日、米国務省は、違法な制憲議会が、ベネズエラの民主主義を弱体化させているとするノーアート報道官名の声明を発表した。

（3）ペルソナ・ノン・グラータ宣告

ア 23日、デルシー・ロドリゲス制憲議会議長は、カナダによるベネズエラ内政への度重なる干渉を踏まえ、当地カナダ臨時代理大使を、また、ブラジルが、憲法的道筋を回復するまで、当地ブラジル大使を、ペルソナ・ノン・グラータとして宣告した。

イ 25日、カナダ外務省は、フリーランド外相の声明として、ベネズエラ政府によって既に召還されている在カナダ・ベネズエラ大使は、今後、カナダに入国できないと宣言するとともに、在カナダ・ベネズエラ臨時代理大使に、ペルソナ・ノン・グラータを宣告した。

ウ 26日、ブラジル政府は、ベネズエラ政府の当地ブラジル大使に対するペルソナ・ノン・グラータ宣告への対抗措置として、在ブラジル・ベネズエラ臨時代理大使に、ペルソナ・ノン・グラータを宣告した。

(4) ラミレス国連代表部大使の辞任

5日、ラミレス・ベネズエラ国連代表部大使（PDVSA 総裁やエネルギー・石油大臣、外務大臣等を歴任）は、ツイッターを通じ、マドゥーロ大統領の要請により、4日、国連代表部大使を辞任したことを明らかにし、6日、米国を出国した。モンカダ外務省北米担当外務次官兼OAS代表部大使が、後任に任命され（4日付官報第41292号）、19日、グテーレス国連事務総長に対し、信任状の捧呈を行った。

(5) 与野党間対話

ア 1日～2日、与野党間対話プロセスが、ドミニカ（共）において実施されたが、合意には至らず、次回会合は、15日に開催されることが決定した。

イ 15日、与野党間対話が、ドミニカ（共）において、9時間にわたり行われたが、合意に至らず、次回会合は、1月11日～12日に開催されることが決定した。

(6) 政治囚の仮釈放

ア 23日、デルシー・ロドリゲス真実・正義・平和・公的平静委員会委員長（制憲議会議長）は、80名以上の政治囚をに対し、拘束の代替的措置が取られるであろうと発表した。

イ 25日、ロメロ・ベネズエラ刑事フォーラム（NGO）代表のツイッターによれば、23日～25日午後6時までに、ラモス前ララ州イリバレン市長、ロベルト・ピコン野党連合MUD技術部門コーディネーター等、計44名の政治囚が仮釈放された。

(7) その他

ア 6日、カラカス大市議会は、マンソール同市議会議長（正義第一党）を、カラカス大市長として宣誓させた。

イ 21日、サアブ検事総長は、共和国倫理審議会により、2018年の同審議会議長に任命された。（2期目）

ウ 25日のクリスマス前後から年末年始にかけ、カラカス、ボリバル州、ヤラクイ州等において、CLAPによる食糧が届かず、ガス、医薬品等の不足に対する抗議活動が行われた。

エ 31日、マドゥーロ大統領は、1月1日からの最低賃金の40%（177,507ボリバルから248,510ボリバル）への引き上げと、セスタ・チケット（福利厚生の一環である主に食糧の購入に使用される）の租税単位の30から61への引上げを発表した。

2 外交

（1）マドゥーロ大統領の外遊

ア 12日、マドゥーロ大統領は、アルジェリアにおいて、二国間関係及び連携を強化するために、ベンサラ・アルジェリア国民評議会議長と会談した。

イ 13日、非同盟諸国運動（NAM）の議長であるマドゥーロ大統領は、トルコで開催されたイスラム協力機構（OIC）臨時首脳会合に出席し、イスラエルの首都をエルサレムとすることを認めたトランプ米大統領の声明を強く非難した。

ウ 14日、マドゥーロ大統領は、キューバにおいて開催された第16回ALBA（米州ボリバル同盟）政治審議会合に出席した。

（2）アレアサ外相の中国訪問

ア 20日、アレアサ外相は、ベネズエラと中国による協力のための総合戦略的同盟を深めるため、中国を公式訪問し、中国を訪問し、楊国務委員と会談した。

イ 21日、アレアサ外相は、宋対外連絡部部長と会談し、多くの投資プロジェクトの構築等、中国の財政的な協力に感謝の意を表明した。

ウ 22日、アレアサ外相は、王毅外相と、科学・技術、鉱業、総合戦略的同盟、多国間フォーラムの調整、壮大なプロジェクトである一帯一路へのベネズエラ及びラ米の参加について協議した。

（3）ボルヘス国会議長の欧州訪問

ア 11日、ボルヘス国会議長は、ローマ法王庁において、パロリン国務長官と、与野党間対話の進展、人道テーマ、現下のベネズエラにおける政治的・制度的危機から脱するための条件について話し合うために会談した。

イ 11日、ボルヘス国会議長は、イタリア外務省において、現下のベネズエラにおける経済的・政治的危機への挑戦について話し合うため、アルファーノ伊外相と会談した。アルファーノ外相は、国会の権能の回復の重要性について強調するとともに、イタリアは、政府により強要された制憲議会を、現在も今後も、認めることはないことを明らかにした。

ウ 13日、ボルヘス国会議長は、レデスマ前カラカス大市長及び政治囚の代表者等とともに、欧州議会によって贈られる思想の自由のためのサハロフ賞を受賞した。

（4）対米

ア 7日、米国下院は、ベネズエラに対し、民主主義を擁護し、汚職と闘うための人道支援を提供することを、賛成多数（賛成：388、反対：29）で可決した。

イ 14日、ニューヨーク南部連邦裁判所は、シリア・フローレス大統領夫人の甥2名に対し、米国に麻薬密売を企てたとして、それぞれに、条件付釈放の権利のない懲役216ヵ月（18年）（2015年11月の逮捕から現在までの25ヵ月（2年）の刑期は満了）と50,000米ドルの罰金を言い渡した。

ウ 18日、トッド・ロビンソン新当地米国大使館臨時代理大使（前在グアテマラ米国大使）が就任した。

（了）